

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆書	隷書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
亥	ガイ 人①								元暦萬葉① 節用
交	コウ かわす まじえる 教2 常①								元暦萬葉② 節用
亦	エキ また 人①								元暦萬葉④ 節用
亨	キョウ コウ とおる 人①								後伏見天皇 節用
享	キョウ うける 常①								藤原朝隆 宝机取

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
亥	亥	亥	亥				亥					亥 現代中国
交	交	交	交	交			交	交	交	交	交	交 現代中国
亦	亦	亦	亦	亦			亦					亦 現代中国
亨	亨	亨	亨	亨	亨	亨	亨					亨 現代中国
享	享	享	享	享	享	享	享					享 現代中国

【亥】大徐本と段注本で古文の字体が異なる。
 【交】九成宮では「一」の下に「火」を書く。江戸では「一」の下に「火」を書く字体あり。漱石は複数の字体を書く。
 【亦】魏靈藏造像記と聖武天皇雜集(下)は「一」を「ク」の形に書くが、これは虚画の左払いを実画として書いたものか。

康熙字典の古文の字体は古代の例に見えない。
 【亨/享】「亨」と「享」は、元は「高」の字体だったものが後に使い分けが生じ、字体が分かれたらしい。後藤朝太郎『教育上より見たる明治の漢字』には「亨」の許容字として「享」を掲載している。字の上部は古代はやぐら(梯子)なのだが、

説文では「口」になる。これは「高・高」と同様だ。南北朝以降は梯子に戻り、干祿字書も梯子だ。その字体が日本に伝わる。江戸になるとまた「口」になる。

【人】²仕²以³仔³仙³

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆書	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
仕	シュウ ①		仕	仕	仕	仕	仕	仕	王勃詩序
仁	ジン ニ 教6常①		仁	仁	仁	仁	仁	仁	王勃詩序
			仁	仁	仁	仁	仁	仁	
仏	フツ ほとけ 教5常①		佛	佛	佛	佛	佛	佛	聖武天皇雜集
佛	人②		佛	佛	佛	佛	佛	佛	聖武天皇雜集
以	イ おも もち 教4常①		以	以	以	以	以	以	王勃詩序
目	イ ④		目	目	目	目	目	目	王勃詩序
已	イ すでに のみ はなは だやむ ②		已	已	已	已	已	已	聖旨指歸
仕	シ つかえる 教3常①		仕	仕	仕	仕	仕	仕	王勃詩序
			仕	仕	仕	仕	仕	仕	杜家立成
仔	シ 人①		仔	仔	仔	仔	仔	仔	
仙	セン セント 常①		仙	仙	仙	仙	仙	仙	聖武天皇雜集
僊	セン ②		僊	僊	僊	僊	僊	僊	聖武天皇雜集

【仏・佛】「仏」は遅くとも中国の南北朝の頃には使われていた。日本では「仏・佛」両方が使われてきた。康熙字典では「仏」は「佛」の古文となっているが、実資料は見えない。
【以】「以」と「目」は異体字。「已」は「以」、「目」と音も意味も似ているが「すでに」「やむ」という意味もある。「目」

は耜(すき)の象形だという説がある。「以」は、「目」に「人」を加えた字だとされる。金文には「目」に「手」とおもわれるものを加えた字もある。「已」は「目」を天地逆にした形で、それで(仕事を)「やむ」という意味を持ったのではないだろうか。睡虎地秦簡や馬王堆は、「目」を横に倒した形で

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
仕	仕	仕	仕				仕					仕 現代中国
仁	仁	仁	仁	仁			仁	仁		仁	仁	仁 現代中国
			志									
			巨									
佛	佛	佛	佛	佛	佛	佛	佛	佛		佛	佛	佛 現代中国
仏	仏	仏	仏	仏	仏	仏	仏	仏		仏	仏	仏 現代中国
以	以	以	以	以	以	以	以	以		以	以	以 現代中国
			目									目 現代中国
已	已	已	已	已	已	已	已	已		已	已	已 現代中国
仕	仕	仕	仕	仕	仕	仕	仕	仕		仕	仕	仕 現代中国
			仕		仕							
	仔	仔	仔	仔	仔	仔	仔	仔		仔	仔	仔 現代中国
仙	仙	仙	仙	仙	仙	仙	仙	仙	仙	仙	仙	仙 現代中国
		僊	僊	僊	僊	僊	僊	僊		僊	僊	僊 現代中国

「人」とおもわれている部分は耜の柄ではないだろうか。「已」は漢代から唐代までは「巳」と字体が衝突していた。
【仕】旁は「土」と「士」の2種類がある。隸書は「土」が多数。北魏の楷書は「土」が多数。唐代楷書は「土」が多数。日本では江戸時代まで「土」が多数。正字は「土」。弘道軒は

「土」のみ。漱石は「土」と「士」の両方を使用。
【仔】甲骨では「保」と字体が衝突している。漢代以降、中国での使用例が見えない。日本では江戸期に突然出現。
【仙】説文では「僊」。

※当用漢字字体表の下の○×は、複数の字体がある字種のうち昭和24年当時、岩田母型製造所での母型の有無を示す。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆家	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
他	タ ほか		𠂔	他	他	他	他	他	他
佗					佗			佗	佗
代	タイ・ダイ かえる かわる しる よ	𠂔	代	代	代	代	代	代	代
付	フ つく つける	𠂔	付	付	付	付	付	付	付
令	レイ しむ	𠂔	令	令	令	令	令	令	令
伊	イ かれ これ	𠂔	伊	伊	伊	伊	伊	伊	伊
仮	カ ケ かり		𠂔	假	假	假	假	假	假
假	カ ケ かり ②			假	假	假	假	假	假
会	カイ エ あつま あつまる かならず	𠂔	會	會	會	會	會	會	會
會	エ カイ あつ あつまる たま		會	會	會	會	會	會	會
企	キ くわだ てる 常①	𠂔	𠂔	企	企	企	企	企	企

【他】異体字の「佗」は包山楚簡の字体と一致する。
 【令】隸書や初唐の楷書では最終画が縦線。戦国古璽では「令」に「口」を加えて「命」とすることもあったらしい。
 【仮】康熙字典には「仮」と「假」は別字として載っているが、それとは別に日本では「假」の草書からできた「仮」が

あり、字体衝突した。江戸版本では「仮」と「假」の使用頻度は半々ぐらいである。中国では現在も「仮」と「假」は別の字種。
 【会】常用漢字の字体は草書かできたものと思われる。五経文字に、説文篆文に忠実な字体と石経の字体の両方がある。

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41～ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
他	他	他	他	他	佗		他	他	他	他	他	他
			佗									
代	代	代	代	代			代	代	代	代	代	代
付	付	付	付	付			付	付	付	付	付	付
令	令	令	令	令	令		令	令	令	令	令	令
伊	伊	伊	伊	伊			伊	伊			𠂔	伊
			𠂔									
仮	仮	仮	仮	假	仮	仮	假	假	假	假	假	假
			假									
会	會	會	會	會	會	會	會	會	會	會	會	會
			會									
企	企	企	企	企			企	企			企	企
	企	企										

【企】漢から南北朝時代ごろまでは下部を「止」ではなく「山」を書いていたらしい。王羲之も「山」を書いてはいる。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆書	隷書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
伎	キギ わざ たくみ		伎	伎	伎	伎	伎	伎	
休	キウウ やすまる やすむ やすめる いこう やめる		休	休	休	休	休	休	
件	ケン くだり くだん		件	件	件	件	件	件	
伍	ゴ		伍	伍	伍	伍	伍	伍	
仲	チュウ なか		仲	仲	仲	仲	仲	仲	
伝	デン つたう つたえる つたわる		伝	伝	伝	伝	伝	伝	
任	ニン まかす まかせ たえる		任	任	任	任	任	任	

【伎】干禄字書では「技」の〈通〉、つまり「技」の異体字として扱われている。行書、楷書では各無し点が付くことあり。
【休】説文に「广」がついた字体があるが、これに合致する例が見えない。南北朝時代は下に横線やれっかがつく。王羲之も興福寺断碑で横線付きの字体を書いている。唐代の楷書で

は横線がつくのは度人経1例だけ。日本の上代は横線つきも書かれる。干禄字書では横線付きの字体を〈俗〉としているが、康熙字典にはない。手書きでは各無し点がつくことあり。
【仰】「仰」の「印」が「印」と書かれることがある。手書きでは多くの場合「印」の1画目が左から右に書かれる。各無し点

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
	伎	伎					伎	伎				伎 伎 干禄(技の通) 現代中国
	休	休					休	休				休 休 江戸干禄(通) 現代中国
	件	件					件	件				件 件 激石 現代中国
	伍	伍					伍	伍				伍 伍 室町 尊門親王 現代中国
	仲	仲					仲	仲				仲 仲 現代中国
	伝	伝					伝	伝				伝 伝 陸軍 × 現代中国
	任	任					任	任				任 任 現代中国

がつくことあり。文部省活字の字体は奇異に感じる。
【件】段注本には載っていないが、大徐本に新附とも書かれていない。段注の抜けなのか、本来の説文にはなかったのか。
【仲】段注は□の形を使い分けているようだ。
【伝】この字種は、繁体と略体、正字と通用字、楷書と明朝体

による字体の違いがよくわかる。現代中国の簡体字は草書の字体。「伝」はなぜこう略すのかわからない。
【任】中国の古代から日本の江戸時代まで正字も含めて旁は「壬」ではなく「王」とする例が多い。「壬」だとしても1画目は左から右に書くことが多い。殷代は「王」でなく「工」。